

平櫛田中彫刻美術館記念館における更新等の適否の判断の検討状況について  
 更新等の検討の前提となる事項

1 施設概要

平櫛田中彫刻美術館記念館

所在地	小平市学園西町一丁目7番5号
用途地域（建ぺい率・容積率）	第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域（60%・200%）
土地面積	1,925.01㎡（平櫛田中彫刻美術館全体）
土地の所有形態	市有地
建築年または改築年	1968年（昭和43年）
構造	木造
建築面積（建ぺい率）	442.74㎡（22.99%）
延床面積（容積率）	439.33㎡（22.82%）
階層	地上1階
構成（部屋名）	旧平櫛田中氏住居（現展示施設）
経過年数、目標耐用年数(到来年)	50年経過、40年（2007年）
現行耐震基準	不明（未調査）
設置目的	小平市名誉市民、彫刻家平櫛田中翁終えんの館（記念館）を保存し、及び公開するとともに、平櫛田中翁の作品及びゆかりの美術品を保管し、及び展示し、もって市民の文化の発展に寄与することを目的とする
サービス内容	美術館の作品及び施設を保存公開し、平櫛田中芸術の普及伝承を行う
同分類(類似)施設	【施設分類】 博物館等（市民文化・社会教育系移設）  【同分類（類似）施設】 小平ふるさと村、鈴木遺跡資料館、公共下水道管理センター（ふれあい下水道館）
近隣施設	上水本町地域センター、学園西町地域センター、上水南公民館、津田公民館、津田図書館、中央図書館上水南分室、平櫛田中彫刻美術館（展示館）、公共下水道管理センター（ふれあい下水道館）、小平第四小学校、小平第十小学校、小平第四中学校、上水中学校、津田保育園、四小学童クラブ、十小学童クラブ第一・第二



記念館外観

## 2 平櫛田中彫刻美術館記念館の位置づけの整理

平櫛田中彫刻美術館は、日本近代彫刻界の巨匠、彫刻家平櫛田中（文化勲章受章者、小平市名誉市民）の作品及び田中が収集した美術・工芸品を展示する展示館と、田中が晩年を過ごした邸宅である記念館、及び田中が愛し小平市に転居する理由となった玉川上水を借景とする庭園により構成される美術館である。

このうち展示館は、平成5年（1993年）建設、目標耐用年数到来年は平成64年（2052年）で、公共施設マネジメント推進計画第4期（H59（2047年）～H68（2056年））の対象施設となっている。

同美術館は広域対応施設に該当するが、記念館は同美術館を構成する施設の一部に過ぎないため、記念館単体では、広域対応施設として他機能との複合化や民間施設の活用の検討を行うことは難しい状況がある。

## 3 小平市の文化施策における平櫛田中彫刻美術館の位置づけ

小平市では、「小平市の文化振興の基本方針」（平成28～32年度）において、小平市ゆかりの芸術家である平櫛田中、斉藤素巖、江藤俊哉を文化資源と位置づけ、これらの文化資源を活用することを重点的な取組としている。その上で「歴史的な文化資源の継承と魅力の発信」を取組の柱の一つとして挙げており、平櫛田中の彫刻作品と現在の記念館である邸宅を、貴重な文化資源として「より多くの市民が関心を持ってもらえるよう取組を進めていきます」としている。

以上の方針に基づき、平櫛田中彫刻美術館では、様々な企画、イベントの開催を行い、それらを通じて同美術館の魅力の発信と、市民の文化芸術に対する意識の醸成を図っている。

## 4 記念館の意義

平櫛田中彫刻美術館は、2に述べたとおり、展示館・記念館・庭園が一体となった美術館であり、そのことが大きな魅力となっている。田中の晩年の邸宅であり、終焉の館である記念館は、田中が生活し創作活動を行った雰囲気、息吹を感じることができる施設である。

さらに、国立能楽堂等を設計した著名な建築家の大江宏氏によって建築された、貴重な文化遺産であると言える。

## 5 平櫛田中彫刻美術館の管理・運営手法

公立美術館の管理・運営の手法については、直営の他に、指定管理者制度、PFIなどがある。

平櫛田中彫刻美術館は、平成18年度に平櫛田中の孫であり同美術館館長である平櫛弘子氏から記念館の寄贈を受けた際、小平市が将来にわたり管理・運営に携わってほしいという意向を受けている。

また、同美術館は、個人美術館としての性格が強いため、田中の展覧会や調査研究においては、田中作品の鑑定人であり、平櫛田中という人物をよく知る平櫛弘子館長、および館長とともに平櫛田中と近代日本彫刻を専門に研究し、そのノウハウを蓄積してきた小平市学芸員を中心に管理・運営を行うことで、学芸機能や資料の調査研究面での充実を図ることができると考えている。さらに、学芸業務を除く日常的な施設管理等は嘱託職員により行っており、コスト面での効率化は既に図られている状況がある。

以上のことから、当面は引き続き市の直営による管理・運営を予定しているが、他の美術館の動向や社会情勢の変化等も注視しながら、効果的・効率的な管理・運営体制について研究していく。

## 6 他自治体、大学などとの連携の取組

公共施設マネジメント推進計画において、広域対応施設は、他の機能との融合などにより、新たな付加価値を創出することができる可能性があり、近隣自治体との相互利用などの広域連携などを進めるとしている。

平櫛田中彫刻美術館では、これまで同じ平櫛田中の美術館である岡山県の井原市立田中美術館をはじめ、三

重県立美術館、ふくやま美術館（広島県福山市）と共催展の開催、相互の作品貸与、情報交換を行ってきた。

市内においては、武蔵野美術大学、ルネこだいら等と連携し、木彫ワークショップ、出前コンサート、あやつり人形公演、作品展等の多彩なイベントを実施している。

さらに、これまでに、多摩地域自治体との美術館同士でスタンプラリーの実施や、共通ホームページの作成を行った（※現在は終了）ほか、ぐるっとパス（東京を中心とする美術館・博物館等の入場券・割引券が1冊にまとまったチケットブックで、公益財団法人東京都歴史文化財団が事務局）に加盟し、都内美術館との連携、発信力の強化にも努めている。

これらの広域連携や、文化芸術関係機関との連携を通じて、同美術館の知名度の向上や付加価値の創出、魅力の発信に努めている。

## 7 平櫛田中彫刻美術館記念館を維持する場合の財源確保の検討

記念館を維持する場合に必要なと考えられる耐震診断や工事等に要する費用については、平櫛田中が日本近代彫刻界の巨匠として文化勲章受章者、小平市名誉市民となっていることも踏まえると、ガバメントクラウドファンディングといった手法による財源の確保なども検討することが可能であると考えられる。

効果的な実施に向けては、例えば、平櫛田中生誕150年を迎える平成34年度のような、人々の関心が平櫛田中と平櫛田中彫刻美術館に集まりやすい節目の時期などが想定される。

## 8 稼働状況等

### (1) 稼働状況

平成28年度はイベントを多く開催し、入館者数が増加している。イベントの開催状況が、入館者数に影響を与えていると分析している。

	H26	H27	H28
年間開設日数	298日	302日	301日
入館者数	8,746人	6,640人	10,179人

【参考：平成29年度 イベント一覧】

4月 春のお茶会 219人

7月 わくわく発見！親子で美術館 67人

7～8月 木彫公開制作&ワークショップ 279人

8月 ナイトミュージアム 112人

10月 ルネこだいら×平櫛田中彫刻美術館出前コンサート 180人

11月 秋のお茶会 183人 菊展示 258人

### (2) コスト状況

歳出（単位：千円）	H26	H27	H28
展示館（土地・建物）	7,490	6,295	6,291
記念館（土地・建物）	4,246	4,662	4,112
両施設（サービス）	38,990	29,046	47,035
合計	50,726	40,003	57,438

公共施設データ集より

歳入（単位：円）	H26	H27	H28
チケット売上	2,243,100	1,493,500	3,648,910
グッズ売上	1,356,370	830,300	1,598,830
合計	3,599,470	2,323,800	5,247,740